

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-085247

(43)Date of publication of application : 07.04.1998

(51)Int.Cl.

A61F 5/441

A61F 5/445

(21)Application number : 08-261175

(71)Applicant : SUYAMASABUROU  
SHOTEN:KK

(22)Date of filing : 11.09.1996

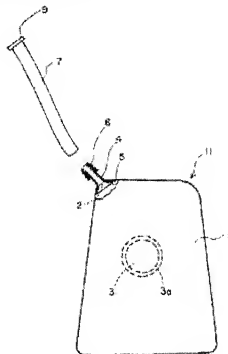
(72)Inventor : SUYAMA MASUHIRO

## (54) EXHAUSTER-EQUIPPED POUCH FOR ARTIFICIAL ANUS

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To facilitate the operation of boring a mounting hole in the top of a pouch for an artificial anus and that of bonding the trumpet-shaped connection of an exhaust tube to the mounting hole bared.

SOLUTION: A mounting hole 2 is bored in the top of a pouch 1 for an artificial anus, and a connecting tube 4 is mounted in the mounting hole 2 to form a pouch main body 11. Also, an exhaust tube 7 is formed with a closing plug 9 mounted on its end. The main portion of the exhaust tube 7 is connected to the connecting tube 4 to form the exhauster of the pouch for the artificial anus. The main portion of the exhaust tube 7 may be either freely removably or integrally connected to the connecting tube 4.



(51) Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

F I

A 6 1 F 5/441  
5/445A 6 1 F 5/441  
5/445

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平8-261175

(22) 出願日

平成8年(1996) 9月11日

(71) 出願人 393008072

株式会社栗山三郎商店

長野県木曽郡崖川村大字平沢1590番地

(72) 発明者 栗山 益弘

長野県木曽郡崖川村大字平沢1590番地 株

式会社栗山三郎商店内

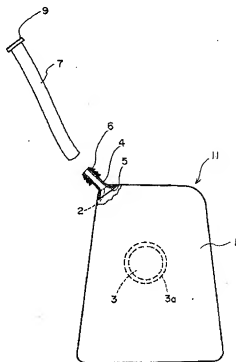
(74) 代理人 弁理士 牧 哲郎 (外3名)

(54) 【発明の名称】 排気装置付き人工肛門用パウチ

(57) 【要約】

【課題】 人工肛門用パウチの上部に取付孔を開口する作業や、この開口した取付孔に排気チューブのラッパ状の連結部を接着する作業が面倒である。

【解決手段】 人工肛門用パウチ1の上部に取付孔2を開口し、この取付孔2に連結チューブ4を取付けてパウチ本体11を形成する。また、先端に開閉栓9を装着して排気チューブ7を形成する。そして、この排気チューブ7の基部を、前記連結チューブ4に連結して人工肛門用パウチの排気装置を形成する。排気チューブ7の基部と連結チューブ4に連結は、着脱自在であっても一体的であってもよい。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 人工肛門用パウチの上部に取付孔を開口し、該取付孔に連結チューブを一体的に取付けてなるパウチ本体と、

先端に閉閉栓を装着してなる排気チューブとからなり、該排気チューブの基部を、前記連結チューブに連結してなる排気装置付き人工肛門用パウチ。

【請求項2】 前記排気チューブの基部を、連結チューブに着脱自在に連結してなる請求項1記載の排気装置付き人工肛門用パウチ。

【請求項3】 前記排気チューブの基部を、連結チューブと一体的に連結してなる請求項1記載の排気装置付き人工肛門用パウチ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、人工肛門から排泄する汚物を溜めるパウチに関し、特にパウチから臭気を抜く排気装置の付いた人工肛門用パウチの改良に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来の人工肛門用のパウチとしては、特公昭61-22580号公報、特公平4-60659号公報、実公昭60-34258号公報等で提案されたものがある。この人工肛門用のパウチには、パウチ内に溜まったガスを脱臭する脱臭手段が設けられている。

【0003】しかし、これらのものは、患者（使用者）の自由意思によることなく、自然にガスが何処の場所であっても放出してしまう。この場合、ガスは、脱臭手段により、一応脱臭または除臭されてから放出されることになっているが、実際の場合、活性炭などを使用した脱臭手段の効力は、殆どの場合、約2時間程で衰退してしまう。従って、2〜3時間以上経た場合には、ガスは脱臭し切れないまま排出されることとなる。

【0004】従って、ガスが下着と皮膚の間を伝わって首筋に行き、この臭いに気が付いて、直ぐに便所に行ってガス抜きしたとしても、下着に悪臭が染み込んでしまつて、本人のみならず、周囲の人々にも悪臭をばらまく結果になるなどの欠点がある。

【0005】これらの欠点を解決するために本発明者は、特開平7-246213号公報に記載の人工肛門用パウチの排気装置を提案した。この人工肛門用パウチの排気装置は、排気チューブと人工肛門用パウチからなる。人工肛門用パウチは、既製のあらゆる型式のものでよく、上部に取付孔を開口する。排気チューブは、先端に閉閉栓を装着し、基部にはラッパ状の連結部を形成したものである。そして、人工肛門用パウチに開口した取付孔に排気チューブのラッパ状の連結部を接着したもののである。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかし、人工肛門用パ

ウチの排気装置を使用する患者の中には、人工肛門用パウチの上部に取付孔を開口する作業や、開口した取付孔に排気チューブのラッパ状の連結部を接着する作業が面倒であるので、初めから人工肛門用パウチと排気チューブが連結しているものを要求する人もいる。あるいはもっと簡便に人工肛門用パウチと排気チューブを連結できるものを要求する人もいる。

【0007】本発明は、上記実情に鑑みてなされたものであり、初めから人工肛門用パウチと排気チューブが連結している装置、あるいはより簡便に連結できる装置を提供することを目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために本発明は、人工肛門用パウチの上部に取付孔を開口し、該取付孔に連結チューブを一体的に取付けてなるパウチ本体と、先端に閉閉栓を装着してなる排気チューブとからなる。そして、該排気チューブの基部を、前記連結チューブに連結して排気装置付き人工肛門用パウチを形成する。排気チューブと連結チューブの連結は、着脱自在であっても、あるいは一体的であってもよい。

## 【0009】

【発明の実施形態】以下、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1、図2、図3は、それぞれ本発明による人工肛門用パウチの全体図、排気チューブの断面図、閉閉栓の要部拡大斜視図である。

【0010】図1において、1は人工肛門用パウチ、2はパウチ1の上部に設けた取付孔である。3は、人工肛門用パウチ1の背面の略中央に設けた円形の開口部で、開口部3の周縁には両面接着剤3aが貼着しており、その表面を剥離紙で保護する。このように、取付孔2は開口部3より離れた位置に開口し、かつ人体にパウチ1を装着したとき、取付孔2が左上隅にあることが好ましい。

【0011】4は軟質で可撓性の連結チューブであつて、連結チューブ4の基部には先広がりのラッパ状の連結部5を一体的に形成する。取付孔2の大きさは略連結チューブ4の太さ程度でよい。6は、連結チューブ4の周囲に連結チューブ4と一体に形成した抜け防止構造であり、図1に示す矢尻状の突起などである。

【0012】図4は、連結部5の拡大断面図、図5は連結部5の平面図である。図4では、連結部5の外周周縁に両面接着テープ5aが貼付されており、その表面をドーナツ形の剥離紙5bで保護している。10は連結チューブ4の経路中の任意な箇所に充填されたフィルタであつて、吸水性があり、液体不透過性で気体透過性のスポンジ材料を使用する。以上の部材は全てできるだけ感触的に柔軟なものが好ましい。

【0013】連結チューブ4は、以下のようにして人工肛門用パウチ1に取付ける。連結チューブ4を開口部3から人工肛門用パウチ1の中に入れてから、連結チューブ4の先端を取付孔2から外部へ引き出す。次に連結部

5の外側周縁の剥離紙5bを剥がして、連結部5を人工肛門用パウチ1の内側から取付孔2の周縁に接着し、取付孔2の周囲に密着しパウチ本体11を形成する。これで連結チューブ4は人工肛門用パウチ1に気密的に、また水密的に連結される。このように、連結部5を人工肛門用パウチ1の内面に接着すると、連結チューブ4を外方に引っ張っても外れる心配がない。

【0014】7は長さが10センチ乃至80センチほどの軟質で可撓性の排気チューブであり、8は排気チューブ7の中間に充填した除臭剤である。除臭剤8には主として活性炭が使用される。この除臭剤8は人工肛門用パウチ1の内部の汚物で濡れないよう出来るだけ排気チューブ7の基部から離れた位置が好ましい。9は排気チューブ7の先端に装着したプラスチック製の閉閉栓で、筒状体9aと、その頭部を閉鎖するつまみ9bとからなり、筒状体9aの側壁に排気孔9cを開口する。一方排気チューブ7の先端付近にも、排気孔9cと略同形のガス排出孔7aを穿設して、筒状体9aを排気チューブ7の先端に挿入することにより、閉閉栓9を排気チューブ7に装着する。閉閉栓9のつまみ9bを回転して、排気孔9cとガス排出孔7aとの位置を合致すると、閉閉栓9は開口し、両孔9c、7aの位置をずらせると閉閉栓9は閉鎖する構成となっている。

【0015】前記パウチ本体11を使用するには、連結チューブ4に排気チューブ7の基部を連結する。この際に抜け防止構造6が、排気チューブ7の基部の案内をして連結を円滑にするとともに、排気チューブ7を引っ張っても連結チューブ4から抜け難くする。そして、従来と同様に、人工肛門用パウチ1の開口部3の回りの剥離紙3aを剥がし、そのまま人工肛門の周囲に図示しない接着剤で貼付する。人工肛門用パウチ1の上から伸縮性包帯やバンド又は下着などでパウチを軽く支えて人工肛門用パウチ1の移動を規制する。排気チューブ7の先端を下着の紐やバンドで挟み外部へつまみ出せる程度にする。長い排気チューブは下着の裾元から外に出し先端を腰のバンドに挟んで仮止めするとよい。人工肛門用パウチ1の内部にガスが溜まり、ある程度、人工肛門用パウチ1がふくらむと、ガスはフィルタ10を経て排気チューブ7の中にも溜まる。この場合、人工肛門用パウチ1に流入した排泄汚物も排気チューブ7の方へ流れ込もうとするが、フィルタ10には吸水性があるので、汚物はフィルタ10に阻止され、ガスのみがフィルタ10を透過する。

【0016】患者（使用者）は身体に人工肛門用パウチ1の膨らみを感じる。そこで自分の意思で、トイレや人気がない処へ行き、排気チューブ7の先端を下着から外部へ取り出し、閉閉栓9のつまみ9bを回して開栓し、ガスを放出する。なお、ガスの排出力が弱くなったときには、人工肛門用パウチ1を着衣の上から軽く手で押さえればよい。なお、外部から人工肛門用パウチ1を押し

ても、汚物はフィルタ8により阻まれ外部には流出しない。以上、本発明においては、閉閉栓9の構成については特に限定するものではなく、ガスの排気と遮断の切り替えができればよい。また、連結チューブ4の周囲に形成する抜け防止構造は、矢尻状の突起に限らず螺子であってもよい。螺子を形成した場合は、排気チューブ7の内周にも螺子を形成しなくてはならないが、矢尻状の突起であれば排気チューブ7の内周はそのままでよいという利点がある。

【0017】図6は、別の実施例の正面図を示す。この実施例では、連結チューブ4の基部にラッパ状の連結部5を形成せず、連結チューブ4の基部を取付孔2の孔縁に一体に取付ける点が前記実施例と異なる。このようにすると、パウチ本体11を製造する際に、連結部5を人工肛門用パウチ1に接着する人手による作業がなく、機械により大量生産できる。

【0018】図7は、連結チューブ4と排気チューブ7の連結部の別の実施例を示す要部の拡大断面図で、除臭剤8を使用する場合に、除臭剤交換が容易な構造を示す。即ち、除臭剤8が充填された継管12を設け、この継管12の両端に連結チューブ4の先端と排気チューブ7の基部とをそれぞれ連結するものである。なお、除臭剤8は通気孔のある蓋付筒状容器に粗い粒状のものを充填してもよく、また通気孔のある成形された除臭剤もよい。この場合は、予め補充用の除臭剤8又は、交換用の除臭剤8付き継管12を用意して、除臭剤8の効力が落ちた時に、除臭剤8または継管12の全部を交換すれば、ガスを常に除臭してから放出することが出来る。継管12と連結する連結チューブ4の先端と排気チューブ7の基部には、抜け防止構造6を形成するとよい。

【0019】さらに、上記各実施例では、排気チューブ7の基部を、前記連結チューブ4に着脱自在に連結したが、接着剤などを使用して一体的に連結し、排気チューブ7と連結チューブ4を一体にしてもよい。この構成により、患者は排気チューブ7の基部を前記連結チューブ4に連結する作業なしに、人工肛門用パウチ1を使用できる。なお、人工肛門用パウチ1に排気チューブ7などが連結した人工肛門用パウチの排気装置は、排気チューブ7とパウチ本体11が一体の状態では製造するのは困難であるので、排気チューブ7とパウチ本体11を別に製造し組立てるとよい。

【0020】

【発明の効果】本発明は、人工肛門用パウチの上部に取付孔を開口し、該取付孔に連結チューブを一体的に取付けてなるパウチ本体と、先端に閉閉栓を装着してなる排気チューブとからなり、排気チューブの基部を、前記連結チューブに連結してなるので、機械により大量生産でき、排気装置付き人工肛門用パウチを安価に提供できる。また、排気チューブの基部を、連結チューブに着脱

自在に連結すると、洗浄しにくい排気チューブが交換でき、パウチ本体を洗浄することにより繰返し使用できる。また、排気チューブの基部を、連結チューブに一体的に連結すると、排気チューブの基部を前記連結チューブに連結する作業なしに、そのままの状態でも人工肛門用パウチを使用できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を実施した人工肛門用パウチの全体図で一部を断面で示す。

【図2】排気チューブの断面図である。

【図3】開閉栓の要部拡大斜視図である。

【図4】連結チューブの拡大断面図である。

【図5】連結チューブの平面図である。

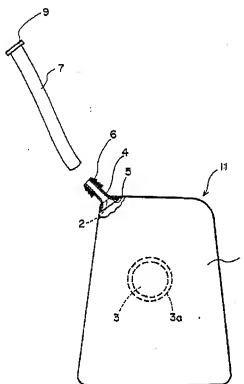
【図6】別の実施例になる人工肛門用パウチの正面図である。

【図7】さらに別の実施例になる人工肛門用パウチの要部の拡大断面図である。

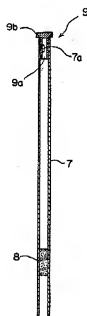
【符号の説明】

- |    |          |
|----|----------|
| 1  | 人工肛門用パウチ |
| 2  | 取付孔      |
| 4  | 連結チューブ   |
| 7  | 排気チューブ   |
| 9  | 開閉栓      |
| 11 | パウチ本体    |

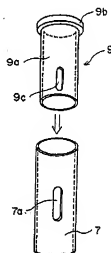
【図1】



【図2】



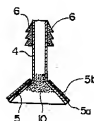
【図3】



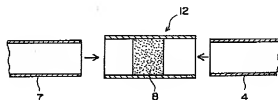
【図5】



【図4】



【図7】



【図6】

